

日田集落「集落営農ビジョン」

人材確保型支援 ・ 規模拡大・発展型支援

※該当する支援メニューに○を記入

作成日：令和6年3月31日

修正日： 年 月 日

市町村名	八頭町	組織名	農事組合法人日田農業生産組合
1 地区の範囲 八頭町 日田地区（及び南地区）			
2 地区の概要			
水田面積	37 ha	主な水田栽培作目	水稲 農家数 58 戸
認定農業者数	2 経営体	人・農地プランの中心となる経営体数	3 経営体
		目標地区に位置付けられる経営体数	3 経営体
3 組織の概要			
設立時期 (規約等の制定日)	平成 24 年 4 月 14 日	経営面積	33.7 ha 構成農家数 58 戸
組織形態 (該当形態に○を記入) ・ 共同利用型 ・ 作業受託型 ・ 協業経営型			
役員の数・年齢 9 人 (平均年齢 66 歳)			
オペレーターの数・年齢 7 人 (平均年齢 65 歳)			
その他集落営農活動に参画している人数・年齢 40 人 (平均年齢 58 歳)			
4 集落営農に対する基本方針			
【集落農業の現状と課題及び課題を解決するための対応方針】			
<p>(1) 担い手の明確化及び水田利用集積目標 ※考え方 (担い手をどう育成し確保していくか。農地賃借、機械の共同利用、作業受委託、生産の組織化などについて。) 水田の経営面積は、おおむね現状維持を目指す。日田地区、および南地区で各 60 a 程度拡大する。草刈り作業等には 40 歳代の参加者もあり、参加する作業を徐々に増やすなどして、法人のオペレーターや役員に育成して担い手を確保していく。</p>			
<p>(2) 水田の作付計画 (水稲以外の作物を含む)、活用方針・具体策 ※考え方 (今後伸ばしていく作物は何か。団地化・ブロックローテーション。作物の品質向上。) 水稲は、堆肥施用、レガ等の作付けにより、化学肥料低減を進め、高騰する肥料費の抑制を図る。また、所得確保が図りやすい SGS 米などをさらに増加させ所得向上をめざす。園芸作物については、秋冬白ネギを中心に作付けを行い、冬場の労働力の有効活用と所得確保を図る。梅、ゆずについて、収穫体験等を通じて都市住民との交流と販路拡大につなげるよう取り組む</p>			

(3) 農業用機械施設の効率利用
 ※考え方(省力・低コスト化に向け、機械・施設をどのように有効利用していくか。今後整備が必要なもの、JAが整備している施設をどのようにするか。)
 高性能のコンバインやトラクターを導入することにより、作業の効率化や肥培管理改善により、経営の効率化はかる。
 米の乾燥調製については、JAライスセンターや南ライスセンターを活用して経費の節減を続ける。

(4) 人材の確保、後継者育成に関する方針
 ※考え方(新たな人材をどのように確保し、どのような方法で育成していくか。)
 草刈り作業等には40歳代の参加者もあり、参加する作業を徐々に増やすなどして、法人のオペレーターや役員に育成して担い手の確保していく。

(5) 経営多角化の方針・具体策
 ※考え方(どのような手法で多角化を図るか。新規作物の導入、販路拡大に向けた自主的な取組みなどについて。)
 すでに、白ネギ等の園芸作物を導入しており、当面は現状維持により経営の効率化で対応する。
 八頭米やレガ米等のPRにより、所得向上を目指す。

【人材確保型支援は記入必須】

5 人材確保のための取組方針

【項目】		【実施年度】		
		6年度	7年度	8年度
人材育成研修	実務研修			
	免許取得	1人	1人	1人
	その他			
集落営農活動への参画		新規1名	新規1名	新規1名

【人材確保型支援(うち畦畔管理省力化支援)は記入必須】

6 畦畔管理の省力化のための取組

(1) グランドカバープランツ施工計画

施工場所: 日田地内

施工対象面積(畦畔実面積): 2ha

本田(=水張)面積: 20ha

年数	内容	面積(ha)	金額(円)	実施年度

注1) 記入欄が不足するときは、適宜追加すること。

(2) 畦畔管理用機械導入計画
(機械利用対象畦畔面積

ha, 本田 (=水張) 面積 ha)

機械施設名	規格能力	台数等	金額 (円)	導入予定年月

(3) 畦畔管理用作業の状況

内容	現状 (5年度)	事業実施後 (10年度)
取組対象 (予定) 面積 (ha)		
取組対象面積当たり年間 作業時間		

注1) 取組対象圃場について記載すること。

2) 記入欄が不足するときは、適宜追加すること。

【規模拡大・発展型支援は記入必須】

7 集積 (経営、機械の共同利用及び作業受託) の目標

【項目】		【現状】	【目標】 令和10年度
農地 の 集積	集積面積 A	27.9ha	29.2ha
	対象水田面積 B	32.9ha	33.4ha
	集積率 A/B	84.8%	87.4%
	地区外集積面積 C	5.8ha	6.5ha
	経営面積 A+C	33.8ha	35.7ha
経営の多角化への取組		白ネギ70a、梅23a、ゆず10aに取り組み、冬場の所得確保や収穫体験など都市住民との交流を実施している。	引き続き規模は現状維持で冬場の所得確保や収穫体験等の交流事業を継続する。

注1) 経営の多角化への取組は、該当する場合のみ記載すること。

8 農業用機械施設の整備方針
1 機械施設の整備計画

機械施設名	規格能力	台数等	金額(円)	導入予定年月	本事業による導入機械に○
収量コンバイン	4条	1台	14,040,000	R6.8	○
自動操舵トラクター	45PS	1台	9,191,000	R7.5	○
農機具格納庫	8×20m	1棟	3,551,000	R8.5	○

9 添付資料

- 人材確保型支援は研修計画一覧(参考様式)、規約の写し及び計画の根拠が分かる資料(総会資料又はビジョン作成話合いの議事録等)を添付すること。
- 規模拡大・発展型支援は集積状況一覧(別表1、2)、機械の利用計画(別紙)、規約の写し及び計画の根拠が分かる資料(総会資料又はビジョン作成話合いの議事録等)を添付すること。

注1) 目標年度は、事業実施最終年度の翌年度から3年以内のいずれかの年度で設定すること。

2) 経営面積等の現状及び目標は、集積状況一覧(別表1、2)により作成すること。